NO BOOK, NO LIFE!!

静岡県立浜松湖北高等学校図書館通信　R6.12　VOL.8

第１７２回　直　木　賞　の　候　補　作　発　表

日本文学振興会主催の第172回芥川賞、直木賞候補作が12/12日付で発表されました。選考会は2025年1月15日に開かれ受賞作品が決定します。どんな本が候補作か、興味を持ってみてはいかがでしょうか。

浅倉かすみ著「よむよむかたる」

小樽の古民家カフェ「喫茶シトロン」には今日も老人たちが集まる。月に一度の読書会〈坂の途中で本を読む会〉は今年で20年目を迎える。店長の安田松生は、28歳。小説の新人賞を受賞し、本を一冊出したが、それ以降は小説を書けないでいる。昨年叔母の美智留から店の運営を引き継いだばかりだ。その「引き継ぎ」の一つに〈坂の途中で本を読む会〉のお世話も含まれる。何しろこの会は最年長92歳、最年少78歳、平均年齢85歳の超高齢読書サークル。それぞれに人の話を聞かないから予定は決まらないし、連絡は一度だけで伝わることもない。

伊与原新著「藍を継ぐ海」

人間の生をはるかに超える時の流れを見据えた、科学だけが気づかせてくれる大切な未来の物語五編。徳島の海辺の小さな町で、なんとかウミガメの卵を孵化させ、自分ひとりの力で育てようとする、祖父と二人暮らしの中学生の女の子。年老いた父親のために隕石を拾った場所を偽ろうとする北海道の身重の女性。山口の見島で、萩焼に絶妙な色味を出すという伝説の土を探す元カメラマンの男。長崎の空き家で、膨大な量の謎の岩石やガラス製品を発見した若手公務員。都会から逃れ移住した奈良の山奥で、ニホンオオカミに「出会った」ウェブデザイナーの女性。

荻堂顕著「飽くなき地景」

土地開発と不動産事業で成り上がった昭和の旧華族、烏丸家。その嫡男として生まれた治道は、多数のビルを建て、東京の景観を変えていく家業に興味が持てず、祖父の誠一郎が所有する宝刀、一族の守り神でもある粟田口久国の「無銘」の美しさに幼いころから魅せられていた。祖父の死後、事業を推し進める父・道隆により、「無銘」が渋谷を根城にする愚連隊の手に渡ってしまう。治道は刀を取り戻すため、ある無謀な計画を実行に移すのだ。やがて、東京の景色が変貌するなか、その裏側で「無銘」にまつわる事件が巻き起こる。

木下昌輝「秘色の契り　阿波宝暦明和の変顛末譚」

江戸時代、こんなにややこしい殿様は他にいなかったかもしれない。小藩から25万石の大藩に養子入りし、苛烈な藩政改革に取り組んだ。誰にも負けぬ弁舌と知識、厳しい倹約令と公共投資の両立、当時の身分制度を破壊する新法、そして、どこにもない市を生み出そうとしたが。三十万両もの巨額の借財を抱える徳島藩。藩政改革を担ったのは、型破りな人物だった。現代にも通じる政治改革と、経済立て直しを目指す藩主と家臣団の奮闘を描かれる。

月村了衛　「虚の伽藍」

日本仏教の最大宗派・燈念寺派。弱者の救済を志す若き僧侶・志方凌玄がバブル期の京都で目にしたのは、暴力団、フィクサー、財界重鎮に市役所職員、古都の金脈に群がる魑魅魍魎だった。腐敗した燈念寺派を正道に戻すため、あえて悪に身を投じる凌玄だが、金にまみれた求道の果てに待っていたのは？

放課後の図書館利用について

- 図書館貸出利用は16:45までです。
- 学習利用は17:30までです。
- 退館時は、椅子や消しゴムごみを片付けてください。
- 閉館当番は、消灯をお願いします。
- 閉館当番は、施錠を職員室にいる先生にお願いして下さい。
- 飲食・スマホ使用は厳禁です。
- 部活、委員会、職員会議がある場合は閉館となります。

放送読書について

毎年この時期に、朝のあわただしいひと時を落ち着いてすごす有意義な時間とするために、放送読書を実地しています。全校でひとつの作品に触れること、声に出して美しいと感じる読物を聞き、心が少しでも暖かくなったり、何かに気づくきっかけになるように企画しています。今年は『五分後に思わず涙』という書籍の中から、四作品を選びました。

一日目	『親友』桃戸ハル著	朗読者	31HR松下圭吾 君
二日目	『花』高木敦史著	朗読者	24HR井上晧一郎君
三日目	『地球嫌い』中原涼著	朗読者	27HR宮本真帆さん
四日目	『銅像』桃戸ハル著	朗読者	38HR伊藤ユウキ君

『5分後に思わず涙。』桃戸ハル著

嬉し泣き、悔し泣き、もらい涙、ほろっと涙、慟哭。どの話からでも読むことができる、1話完結の読みきり集です。芥川龍之介や太宰治らの文豪作家の作品のオマージュ作品もあり、隙間時間を充実した読書時間にできます。

作品選びと資料作りを図書委員会が行い、放送と朗読を放送委員会が行いました。朝読書の時間に収まる作品で、朝聞くのにふさわしい内容を選ぶのに何冊も短編集を読んでみたり、実際に聴いてみたり時間を費やしました。放送委員の皆さんが、朗読の練習や本番のように実際に放送機器を使ってリハーサルを行うなど協力的に準備を進めることができました。生徒の皆さんにとって有意義な時間になっていると嬉しいです。
図書委員長　２２HR島津快都

ビブリオバトル報告

今年度の第三回ビブリオバトルが行われました。前回チャンプの27HR縣樟馬君に11HR松本旺芽君が挑みました。また教育実習生の簑浦蛍一先生も参加してくださり大いに盛り上がりました。結果は、わずか１票差の白熱のバトルとなり、前回チャンプの縣君が勝利となりました。

蓑浦蛍一先生のお薦め本
『君の膵臓をたべたい』住野よる著

ある日、高校生の僕は病院で一冊の文庫本を拾う。タイトルは「共病文庫」。それは、クラスメイトである山内桜良が密かに綴っていた日記帳だった。
そこには、彼女の余命が膵臓の病気により、もういくばくもないと書かれていた。

自分も高校生だったころに読んだ本です。少し大人になって読み直してみると、ほんの数年前のことなのに、高校生活の純度や儚さ尊さが、こみ上げてきてかけがえのない宝物のように思い出されました。感受性の強い高校生の頃に、読んでおいてよかったなと思う一冊です。

絵本の読み聞かせ会

図書館司書の五十川亜純さんは、各所から読み聞かせの依頼が来るほど絵本を専門分野としています。例年、１年生が保育実習に行っていたこの時期に希望者を対象に読み聞かせ会を行っています。保育実習は今年はありませんでしたが、亜純さんの読み聞かせを聞いたり、実際に自分たちで絵本を読んでみたりして、とても良い時間が流れています。

子どものためと思われがちな絵本の読み聞かせが、実は大人のストレス解消にも効果があることが明らかになっています。絵本の中には、社会観を培ったり哲学の根源となる物語がたくさんあります。高校生の皆さんが読み手側になることでも、他者を思ったり集中力や洞察力などを磨く手立てにもなります。

※火曜日の放課後に行われています。